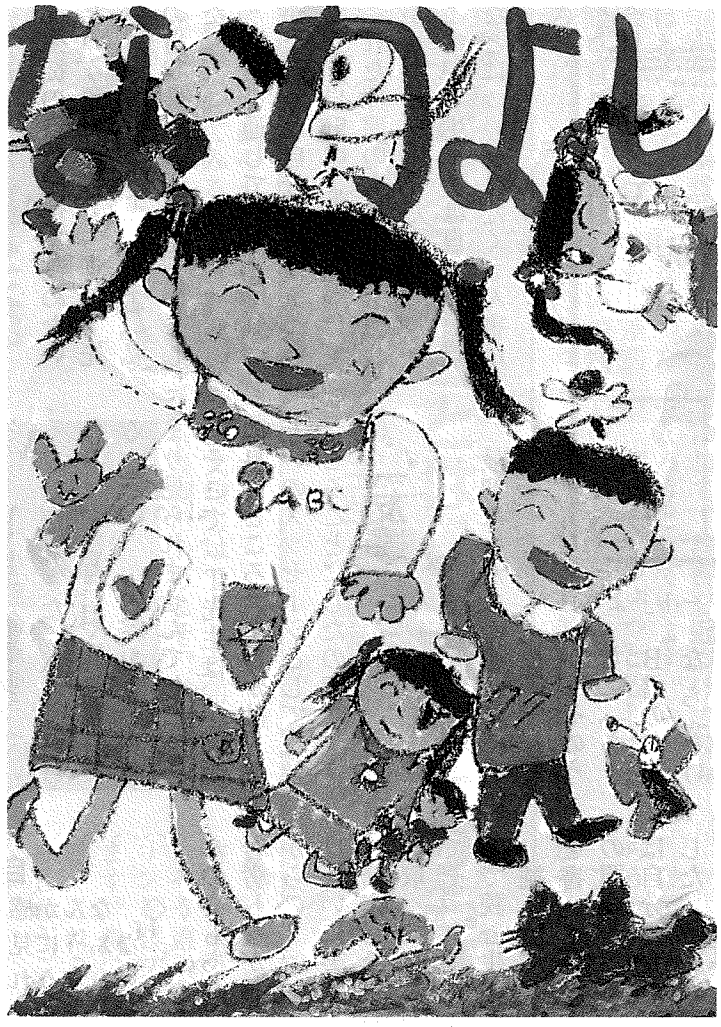
人権同和教育だより

第64号

発行　長野県教育委員会
編集　人権・同和教育課
発行人　小幡誠宣
印刷　毎日印刷

広げよう　差別をなくす　心の輪

「いつでも、誰でも、どこでも」
人権尊重をあたり前のこととして
行動できる力の育成を目指して



平成14年度　差別の解消及び
人権意識の高揚を目指すポスター入選作品
中野市立高丘小学校　1年　小林　愛里沙

もくじ

○自尊感情を育成する―M中学校の授業実践から　8
○字を覚えることは、自分をとりもどすこと　7
○人権尊重の精神の涵養とは、何を視点にしたらいいのか　6
○人権課題に即した個別的な視点からの取り組み　5
○平成十四年度差別の解消及び人権意識の高揚を目指すポスター、作文・詩の審査結果　4
○作文入選作品「世界と私の未来予想図」　3
○「人間教育」を特色ある学校づくりの柱に　2

「おべんとう」

東部町立田中小学校　一年　中村　遥

あきさがしのとき、
むらさきちゃんと こいちせんせいと
かんばやしせんせいと まいちゃんと
ひろしくんと おべんとうを たべました。
おべんとうのおかずを
むらさきちゃんと こうかんしました。
むらさきちゃんの チーズのおにくまきは
とてもおいしかったです。
こいちせんせいが、
わたしと むらさきちゃんに、
「ふどうをたべる」といって
きょほうを 一こずつくれました。
わたしは、むらさきちゃんと かおをみあわせ
にっこりして、もらいました。
みんなで しばふのうえで たべたので
とってもおいしかったです。
せんせいと むらさきちゃんと はるかと
びにいるしいとがおそろいで
びっくりしました。
なんかうれしかったです。
はるかは えがおになりました。
てんこうしてきて
はじめてのえんそくだったけど、
みんなといっしょでたのしかったです。

平成14年度差別の解消及び
人権意識の高揚を目指す作文・詩入選作品

「共育」クローバープラン

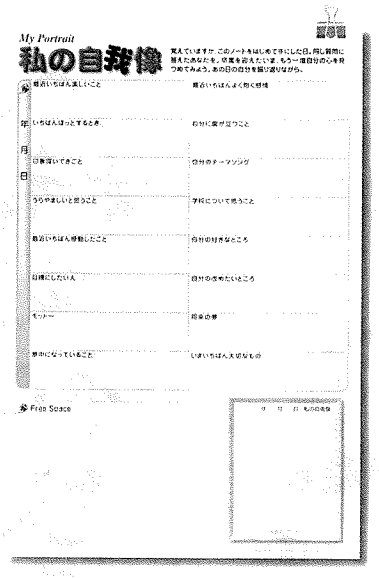
自尊感情を育成する M中学校の授業実践から

「私の自我像」

生徒の自尊感情を高めたいという願いから、一年のT先生は「心のノート」にある「私の自我像」の授業を行いました。

授業を通して、今まで気づかなかった自分の姿に気づいたり、自分のよさを見つけてくれた仲間の大切さにも気づかせたいと考えたのです。ところが、生徒達は自分の欠点などについてはたくさん書けるが、良い点などについてはほとんど書けないのです。さらに、「一生懸命頑張っている自分が好きだ」とか、「自分の行動に自信や誇りが持てる」といった内容のものもあまり見られませんでした。

そこで、T先生は、「友達の良いところ」を書かせ、お互いのメッセージとして交換させることにしたのです。



（文部科学省「心のノート」より）

「友達からのメッセージ」

最初はなかなか書きにくい様子でしたが、そのうちに「あーB君のことなら書ける。」R君がつぶやきました。また、書きながら思わず相手の顔を見るC子さんの姿もありました。そして、苦労しながら仕上げた「友達からのメッセージ」を生徒達は互いに笑顔で交換しました。

緊張しながら読む生徒。受け取ってからいったんたたんでそっと開いて読む生徒。笑顔で読む生徒。

続いて、「今の率直な感想を書いて下さい。」T先生の問いかけに応えて、生徒達は自分の今の気持ちを書きました。（自分への思い）

生徒達が今の気持ちを発表した後、「自分のよさを教えてくれた友達への思い」を書かせ、発表させることにしました。（友達への思い）

自分への思い

◇　なんか感動した。自分は友達にそんなふうに見てもらっているんだな、と思ってうれしかった。こんなふうに見てもらえると、自分でも、「もう少し、もうちょっとだけ頑張ってみよう」と思える。

金子みすずの、「みんなちがってみんないい」の詩が頭に浮かんだ。

◇　メッセージを見て意外だなと思った。やさしいとかすごいとか、自分では何もしないと思っていたのに、なんかうれしかった。

掃除をしっかりやっていると書いてあったけど、班長だからしかたなくゴミをとっていたのに、感じてくれる人がいて良かったなあと思いました。「私の自我像」を見ても、自分でも、暗いなあと思っていたのはマイナス思考だったからかな、と思いました。

友達への思い

◇　そんなふうに思ってくれた友達にありがとうっていう気持ちを、誰もいないところで叫びたい。

◇　自分の心がけていた所を見てくれていてありがとうという感謝の気持ちと、その人達はすごいなと感じました。

◇　このメッセージカードをもらうまでは不安な気持ちができかけていたけど、もっと自信を持っていいかなって思いました。自分の背中を押してくれたような感じがします。友達が自分に関心を持ってくれていると感じました。

T先生の思い

最後にT先生は、「私からも、みんなにメッセージがあります」と話し、『わたし』を大切にすることは『他人』を大切にすることと題する一つの詩を紹介しました。

自分を大切にすることができなければ他人を大切にすることができない。他人を大切にする気持ちがなければ自分を大切にすることはできない。ということを友達との関係から考えてほしい。メッセージとともに、T先生はそんな思いも語りました。

生徒の自尊感情を高める手だてとして、友達のよいところを互いに交換する学習が実践されています。このような学習は、継続や時間をおいて同じ学習を積み重ねることなどで効果があがります。友達から認められたことが、その後の自分の生活に変化を与えたのか語り合う機会をとりたいものです。また、教師の生徒個々に対する評価も、機会をとらえて与えたいものです。

字を覚えることは、自分をとりもどすこと

――識字学級の取組から――

「字だけを覚えたって意味がないあさ。大事なのは、覚えることによって、何を学ぶかだぜ。」

学級が開かれるたびに、仲間の会員に言い続ける支部長さんのいつもの口癖です。

小学校の頃貧しさのため、ほとんど学校へいけなかった会員。学校へ行っても、差別語を言われ、悲しい思いの残る学校生活。そんな中にあって、六〇歳や七〇歳を越えた会員にしてみると、字を覚えることがいかに新鮮であり、力強く感じるかということを伝えているのです。

「丸をもらったよ。」

初めて書く漢字。初めて読む漢字。漢字問題を解くために、持ち寄った辞書を丹念に調べ、書き写す。その辞書は何回も使ったのであろう、表紙が色あせていたり、めくれていたり。しかし、来るたびにいつも大事そうに抱えてきます。

問題にあった漢字を見つけたとき

「お、あった。あった。」

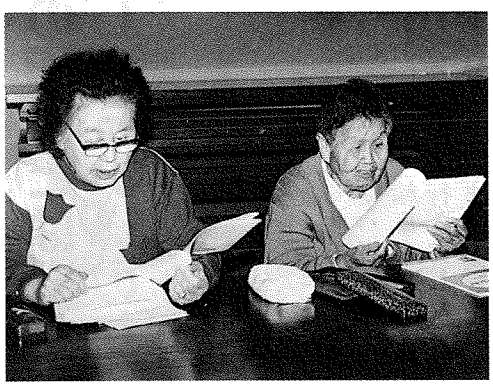
「なんだこんな字か。おら知っていらあ。」

一人ひとりは本当に真剣です。それこそ、目を皿のようにして、辞書を近づけて読みとろうとしています。

「先生。ちょっと難しすぎやしねえ?」

「字、小さすぎて見えねえよ。」

文句もはっきりと言う。でも真剣だからこそ、言います。



一通り問題を終えると、みんな目をキラキラと輝かせ、答え合わせの間、じっと先生の手元を見ている。何か間違っても×をしてはいけない雰囲気です。

「先生厳しいなあ。少しぐらいいいじゃねえか。」

最後に先生から四重丸をもらうと、

「先生、おら、この四重丸がうれしいんだよな。今まで、もらったことがねえもの。先生ありがとな。」

そう言って大事そうに、プリントをファイルに綴じ込みます。身に付いたという満足感。これこそが、勉強しているということではないでしょうか。

「だから解放に向かって立ち上がれたんだ。」

昔の話や解放運動の話になると、時の経つのも忘れる。

「あの時は、本当に苦しかった。その日の食べるものもなかったよな。考えてみりゃ、よく生きていたわなあ。」

「お父やお母の手伝いさせられたよな。この藁全部たたくまでは、飯ねえぞなんて。」

自分の過去を語るうちに、話は部落解放に向かって運動していった自分や仲間たちの話になっていきます。

「みんなで手弁当でさあ、どうして差別をするんだって、大きな声出して、訴えたよなあ。」

「二・三日寝ないで、看板作ったり、知事に会いに行ったり。」

「字が読めなかったのが辛かった。」

「そうだ。知ることは大切だとは思っていたけど、どうしてもという気持ちはなかった。でも、こうして字を学んでいくことが解放の運動につながるんだ。」

熱っぽく語る支部長さん。会員も、うなづきます。

「わしを解放運動に立ち上がらせたのは、字を覚えたからなんだ。今になって本当にそう思う。識字学級があってよかった。」

「そして自分を変えよう!」

「そうだよな。おらもこの識字学級に通うようになって、そうさなあ。おらが一番変わったかもしれない。」

そう語る会員。今まであまり考えていなかった自分というものが、字を覚えること、覚えようとすることで、見えてきました。同時に、世の中の仕組みも見えてくると、自分でその善し悪しや過程を判断するようになり、それが、自分をまた変えていったということです。

「そうなんだ。これからの解放運動は、自分をいかに変えるかということだよな…」

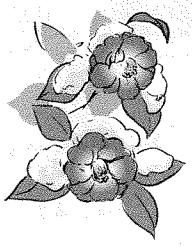
支部長さんは、感慨深げに語ってくれました。

その変わった自分を、何とか文字として残しておきたい、そんな思いが伝わってくる識字学級での一こまです。

「字を覚えることによって何を学ぶのか」

結論はでないものの、識字学級に学ぶ会員は、真剣に考えています。考えながら今までの自分の人生を重ね、これからどう生きていくかを問いかけているようです。

そのことが、学びの原点を問いかけているようでもあります。



人権尊重の精神の涵養とは、何を視点にしたらいいのか

～指定幼稚園の実践をとおして～

見守りの指導

M幼稚園の自由参観の時間です。

「また始まったよ」と先生方がニコニコしながら、話していました。その視線の先には、一台の三輪車をはさんで言い争いを始めた年少児がいました。

三輪車は何台もあるのですが、どれも子どもにとっては同じではなく、微妙に違いがあるのです。子どもの会話から察し、その車は他のと違い、速さが違うようです。

一人の子は、仕方なく違う三輪車で遊び始めました。しかし、しばらくすると、またその三輪車を使っている子どもの所へ、三輪車を替えてほしいと訴えて行きました。でも替えてくれません。そこでハンドルに手をかけ、奪い取ろうと強硬手段に訴えました。

その時です。それまで、ニコニコしながら様子を見ていた先生達が、すっと2人の間に割って入り、力ずくで三輪車を自分のものにしようとしていた子ども達に話し掛けました。

奪おうとした子には、「痛いことしちゃダメ。自分もされたら痛いでしょ。」

さらに、替えようとしなかった子には、「替えてほしいとずっと待っていたんだよ。」と、互いの気持ちを伝えました。できれば自分の言葉で自分の気持ちを伝え合うことを子ども達に願い、ずっと見守っていた先生方でした。しかし、ここぞという時には素早く行動し、いけないことはいけないと毅然として伝えています。

また、学級の中においても、悲しい思いを先生に伝えようとして来た子どもに、「悲しい気持ち、先生に言うんじゃなくて、お友達に言いましょうね。」と指導していました。

この先生方の姿から学んだことが二つあります。

一つは、見守りの指導ということです。

特に幼児期は、我が儘が言動に表れる時期です。当然毎日がトラブルの連続といってもいいでしょう。その場で、子どもになにを学ばせるかを教師が持ち得ているかいないかで、その後の子どもの育ちは大きく変わります。

M園では、様々な問題を、子どもたちが自分自身の力で解決しようと学んでいくことが、「生きる力」の育成につながるととらえ実践していました。

人権同和教育は幼児期が重要と言います。日常的に、子どもに任せられる部分は任せ、自分の言葉で自分の思いを相手に伝えていく力をつけていくことが、問題を解決するスキルとなると考えます。

二つ目は、子どもが安心して活動できる環境作りが重要であるということです。M園では、常日頃この事例のような取り組みが行われています。その取り組みにより、子ども達は、常に先生に見守られているという思いに支えられています。そこで安心して自己をさらけ出し、のびのびと自由に活動することができていました。

この日頃の取り組みの先に、自信に満ちた活動を行う子どもの姿が見えてきます。そして、日々、自己充実感に浸り、毎日笑顔で登園する子どもが育っていくと思えるのです。

人権同和教育のねらい

さて、年度当初の「学校人権同和教育担当者会議」や、本年度の新規事業である、「学校人権同和教育研修会」等、様々な機会を通じてご理解をいただいてきておりますが、本年度より「同和教育」をさらに発展させた「人権同和教育」という方向で、幼稚園はもとより全ての学校で人権同和教育を推進していただいております。

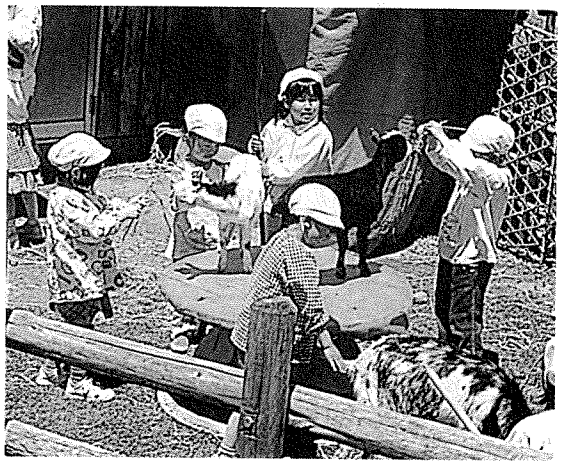
人権同和教育は、その「基本的な方向」で示しているとおり、「人権尊重の精神を涵養する」ことに目的をおいております。

まず、子ども達に人権尊重の精神を涵養するためには、子ども達が安心して活動できるための、「人権を通しての教育」が行われる環境づくりが必要です。そのためにも、全職員の共通理解のもとに、足並みをそろえて取り組まなければなりません。

さらに、人格を持った個人として、子どもの持つ力を信じ、子どもの人権を尊重して子どもに任せる「人権のための教育」を行うことも欠かせません。

このように、今問われている「生きる力」の育成は、人権同和教育が大きな部分を担っていると言えます。

以上、M園の実践から、人権同和教育を進めるための柱とは何かについて考えてみました。



人権課題に即した個別的な視点からの取り組み

～同和問題の解決に向けたH小の実践から～

人権同和教育を進めるにあたって、「人権同和教育の基本的な方向」には、次の二つのアプローチが示されています。

一つは、「人権一般の普遍的な視点」からの取り組みであり、もう一つは、「人権課題に即した個別的な視点」からの取り組みです。

各校の様々な取り組みの多くは、「自尊感情の育成」、「開かれた学級づくり」または、「コミュニケーションの力の育成」等に見られるように、前者を主題においた研究となっているのではないでしょうか。

ところで、「基本的な方向」では、「同和問題については、引き続き重点的に教育・啓発に努めるとともに～」と示されています。そこで、人権課題に即した個別的な視点からの取り組みを紹介しましょう。

H小学校は、町をあげた取り組みの中で、同和問題の解決を柱に、日々実践を積み重ねています。その中から、同和問題との出会いを大事にした社会科学習のあり方について共に考えてみたいと思います。

（入選作品　平谷小二年　相田　亮）

納得いかない！

教科・領域を指導する上でも当たり前のことなのですが、6年生を担任しているA先生は、子ども達が同和問題を学ぶということは、人間としてどう生きていくかを問うことに他ならないと考えています。そして、同和問題を学ぶ上で、子どもが自分の問題ととらえない限り、題材としては成立しないと考えました。その観点に立って子どもと向き合う中で、普段の飾らない言葉で自分の考えを伝え合い、納得するまで追究する子どもに成長していきました。

一例として算数での学習があげられます。市販の針金を使い単位量の学習をした時のことです。

六本の針金の長さを計算で割り出した結果、三本が六七メートル前後、残りの三本が七〇メートル程となりました。「七〇メートル」で市販されていた針金です。子ども達は納得できません。何度重さを量り直して計算しても、実際に計測してみても針金の長さは違いました。そこで子ども達は「納得いかない！」と、販売店に質問状を送りました。販売店では、早速針金を調べ、県外の製造メーカーに問い合わせ、原因を追及し、製造工程を一部変更したと回答してくれました。

子ども達は、納得いかないからとやったことが、会社を動かすことにもなったということを知り、自分の問題として学習を深めるようになりました。

差別はなくなったのか？

社会科でも同様な学習が進められました。江戸時代の学習で、「なぜ江戸幕府が二六〇年も続いたのか」と、幕府の政治に目を向ける中で、身分制度に疑問を持ちます。

「同じ人間なのにどうして差別が当たり前のことになっていたのか」

「この差別はなくなっていったのかな」と、今につながることとしてとらえていきました。

そこで、A先生は、子ども達の疑問をもとに、明治維新後、身分制度が廃止されて以後の部落差別の状況を、総合的な学習の時間で展開していきました。

子ども達の調べ学習が進み、Y町で行った町民アンケートの、「部落差別をなくすためにどうしたらいいか」に対する、「そっとしておけばよい」という項目から学習が深まっていきました。そして、自分の住んでいる町にも同和問題があるということに気付いていくのです。「そっとしておく」ことは、今まで自分たちが学んだことまでも否定することだ、今まで学んだ意味はなんだったのか、と気付いていったのです。この学習での子どもの意識を追ってみます。

「自分たちの先祖がそういうこと（差別）をしてきたのかもしれない」

「そっとしておくことは解決ではない。ちゃんと知れば解決できる。知らないまま私たちが終わりにしちゃいけない。」

「ちゃんと知れば（賤称語は）使えない。差別の重さがわかったんだよ。本だけ読んでいたら分からなかった。軽く受け止めていた。ここまでやったから、深く受け止められた。他の人にも深く知ってもらいたい。」等、飾らない子どもの言葉で学習が深まっていきました。A先生の願いである『自分はどう生きるのかと、迷いながら、揺れる心をもとに、自分の生き方』に至る学びが成立したのです。

この実践から二つのことが示唆されます。一つは、同和問題は過去の問題ではなく、今もある人権問題であり、自分につながる問題だということ、そして二つ目は、「人権についての教育」という視点から、社会科で学んだ同和問題について、総合的な学習の時間に発展させ、子ども達が納得するまで追究させていく点です。

このように、子どもの学びが成立しなければ、子どもの学習権は保障されたとはいえません。学習を保障するために、「人権としての教育」という観点で、自校の教育計画を見返すことが必要です。

人権とは何か、人権教育とは何か、そのもととなるものを学校全体で論議し、未来を切り開く子ども達が、人権尊重の精神を涵養することができるように、全職員が一致した足並みで取り組みたいものです。

平成十四年度 差別の解消及び人権意識の高揚を目指す ポスター・作文・詩の審査結果

今年度、ポスターは八七〇点、作文・詩は三九八点の応募がありました。

小、中、高校別の応募状況は別表のとおりとなります。ポスターの応募数についてはほぼ前年度と同じですが、作文・詩の応募数は法務局で募集した中学生の作文を除いてありますので、その分減少しています。

ポスターの部、作文・詩の部ともに、差別をなくし、共に生きる社会の実現に向けた明るい展望を表現する前向きの作品が多く見られました。

応募状況

	ポスター	作文・詩	合　計
小学校	697	344	1,041
中学校	149	18	167
高　校	24	36	60
合　計	870	398	1,268

（入選作品　赤穂中学校　一年　田中　亜季）

（入選作品　松本蟻ケ崎高校　1年　秋穂　佳野）

ポスターの部　入選者

【最優秀賞】
高丘小学校　一年　小林　愛里沙
松本蟻ケ崎高校　一年　秋穂　佳野

【優秀賞】
坂の上小学校　五年　塩川　森平
高丘小学校　一年　松井　寛起
川上中学校　二年　渡辺　あゆみ
赤穂中学校　一年　田中　亜季
上松中学校　二年　大日向　綾美
松本蟻ケ崎高校　一年　清沢　菜美
松本蟻ケ崎高校　一年　小松　明日香

【優良賞】
坂の上小学校　五年　清水　真裕子
平谷小学校　二年　早川　光
大町西小学校　六年　竹内　美樹
川上中学校　二年　山中　奈津美
松本蟻ケ崎高校　一年　笠井　美香
松本蟻ケ崎高校　一年　佐野　あゆ美
松本蟻ケ崎高校　一年　小倉　みなみ

【佳作】
坂の上小学校　五年　水口　亜子
上田市立南小学校　四年　吉田　桃
松尾小学校　六年　木下　直弥
平谷小学校　二年　相田　亮
高丘小学校　二年　小林　みずき
宮田中学校　二年　鈴木　しおり
下諏訪中学校　三年　上原　由貴
赤穂中学校　三年　橋本　昌典
松本蟻ケ崎高校　一年　竹川　真衣子
松本蟻ケ崎高校　一年　小林　美保

【学校賞】
小諸市立坂の上小学校
中野市立高丘小学校
川上村立川上中学校
駒ヶ根市立赤穂中学校
松本蟻ケ崎高等学校

作文・詩の部　入選者

【最優秀賞】
該当者なし

【優秀賞】
「言い方一つで・・・」　小海小学校　五年　原　明里
「おべんとう」　東部町立田中小学校　一年　中村　遥
「仲よくなってみせる!!」　豊科北小学校　六年　小倉　みゆな
「相手の立場に立って」　豊科高校　一年　吉田　恵美
「世界と私の未来予想図」　豊科高校　二年　片瀬　澄恵

【優良賞】
小海小学校　五年　加藤　貴巳
武石小学校　一年　鮫島　陽
下氷鉤小学校　三年　塚田　里穂
豊科高校　一年　丘本　菜の香
豊科高校　二年　佐藤　瑞枝
豊科高校　二年　島田　依未子

【佳作】
武石小学校　四年　柳澤　奈留美
豊科北小学校　六年　寺畑　咲
更級小学校　六年　西澤　健人
豊科高校　二年　中埜　宏美
豊科高校　二年　市川　明日香

【学校賞】
武石村立武石小学校
豊科町立豊科北小学校
長野市立下氷鉤小学校
豊科高等学校

差別の解消及び人権意識の高揚を目指す作文・詩の入選作品

世界と私の未来予想図

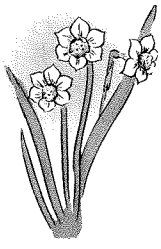
豊科高等学校　二年　片瀬　澄恵

青年海外協力隊。私が、今最も関心のあることの一つです。この言葉を初めて知ったのは、確か小学校の社会科の教科書でした。その頃は、ただ青年海外協力隊という名称を知っていただけで、どのような活動を行なっているかなどは、全く知りませんでした。具体的な活動内容を学んだのは中学生の時でしたが、その時も「青年海外協力隊などに、なぜ行きたい人がいるんだろうか。」と思いました。私の頭の中には、青年海外協力隊の派遣される国はアフリカなどの開発途上国。そしてアフリカといえば、文化や生活水準の低い黒人の暮らす国というイメージがありました。アフリカ社会は肌が黒い人ばかりで、さまざまな死に至る感染症などの猛威があり、恐れからくるイメージが強く、偏見を感じていました。自分の心の中には、開発途上国の黒人への差別の気持ちを持ってしまっていたのです。

高校に入学した私は、JRCクラブに入部しました。入部してから、少しずつ開発途上国に対する見方が変化していきました。豊科高校JRCクラブでは、高齢者の方や身体障害者、知的障害者の方の施設訪問とボランティア活動などを行なっています。また、古紙を利用してつくった手作りノートや文房具などを、発展途上国の子ども達に送る物資支援活動を行なっています。以前、アフリカのケニア共和国へ物資と一緒にインスタントカメラを送りました。戻ってきたカメラを現像してみると、そこには開発途上国の人々の沢山の笑顔があふれていました。ノートを受け取る時のケニアの子ども達の純粋な喜びが、写真をとおして伝わり、思わず胸が熱くなるのを感じました。確かに私たち日本人の生活は豊かで、平和な毎日を過ごしています。こうした社会から見ると、開発途上国の人々の生活は貧しく、不幸だと思っている日本人は少なくないかも知れません。でも、それは思い違いです。彼らは物質的な貧しさはあっても、生き生きと心豊かに生活しているのです。私たちがマネできないような素敵な笑顔が写真の中にありました。むしろ、今の私たちよりも遥かに逞しい心を持ち、伝統文化の中で精神的豊かさのある生活をしていることを、JRCクラブの支援活動を通じて少しずつ学ぶことができました。私の心の偏見は、いつの間にか消え、開発途上国の人々から大切なことを学ぶと同時に、どうしたらもっと開発途上国の人々のために活動することができるだろうかと考えるようになりました。

私は、将来、看護師を志しています。看護師から、少し視野を広めてみようと思い、保健師や助産師の道を考えてみたことがありました。そんな時に、自分の持っている資格を生かして海外でも活躍ができたらと思い、青年海外協力隊に関心をもつようになったのです。運が良いことに、今年青年海外協力隊でケニアへ看護師として派遣されていた外処恵美さんと元ペルー・ケニア大使の青木盛久先生から、青年海外協力隊についてのお話を聞く機会がありました。二人のお話を聞いて、やはり大変な仕事だと思いました。看護師というのは、人の命を預かる仕事なので、安易な気持ちで志してはいけないということは、とてもよくわかっています。ましてや、海外に行って仕事をするのは言葉も通じないうえに、相手の社会に受け入れてもらえるか心配です。それでも私は、行ってみたいと思いました。私の持っている力で、沢山の開発途上国の人々が、私の大好きなあの笑顔を輝かせてくれたなら嬉しいと思っています。

今はただ、私の中にある未来予想図に従って、今やらなければならないことに追われる毎日です。自分の未来を思い描き、未来予想図を作ることは、ドキドキワクワクして楽しいことです。予定どおりの未来になるか分かりませんが、未来予想図の実現に向け、努力していくつもりです。あの笑顔に会うために。



人権教育をめぐる動き

「人権教育及び啓発の推進に関する法律」第七条に基き、平成十四年三月に「人権教育及び啓発に関する国の基本計画」が策定され、長野県においても同法第五条に基き、「長野県人権教育・啓発推進指針」を策定中です。

県民からのパブリックコメント期間を経て、平成十四年度中の策定を目途に最終的な詰めの段階を迎えています。

県のホームページをご覧ください。

「あけぼの」改定予定について

平成15年4月

「あけぼの　人間に光あれ」資料編
「あけぼの　小学校中学年向け」
「あけぼの　小学校中学年向け・指導のてびき」

平成16年4月

「あけぼの　小学校低学年向け」
「あけぼの　小学校低学年向け・指導のてびき」

「人間教育」を特色ある学校づくりの柱に

中高連絡協議会―O高校の実践から―

全校で取り組む人権感覚の育成

十一月、O高等学校を会場にして、人権同和教育中高連絡協議会が開かれました。

O高校では、「人間教育」を特色ある学校づくりの基本にすえて、人権の視点からの生徒指導、人権問題に関わる新聞記事を話題にしたSHRなどが日常的に実践されています。こうした全職員での人権同和教育への取り組みの積み重ねのもと、当日は一・二学年全学級での授業が公開されました。担任の先生方の個性を生かした授業実践を通して、参加した中高の先生方に多くの示唆を与えていただきました。

（写真：長野日報社提供）

教科「基礎福祉」での障害者理解

目の不自由な歌手、新垣勉さんのTVドキュメンタリー番組から学ぶ授業。

ビデオ「キムの十字架」視聴後の生徒の感想や歴史資料を通して、人種問題、国際理解を深める授業。

生徒へのアンケート調査資料を基に、男女共同参画社会の実現に向けて生徒の意識を見返す授業。

乙武洋匡さんの『五体不満足』の資料、新聞記事等を通して、間もなく親になる自分たちの問題として「命」について考える授業。

世界地図にさまざまな情報を書き込みながら、外国に関する認識の偏りに気づく活動、在日外国人の数値資料、『アフリカからきた花嫁』のフィディアさんへの共感。これらを通じた国際理解のあり方を考える授業等、いずれも自分達の授業に取り入れてみたくなる実践でした。

自己理解活動に取り組む高校生

二年生のあるクラスでは、座席による三人グループで、他の二人から下記のワークシート用紙を使い、自分について書いてもらう活動をしました。

「えー、どうしよう。わからない。」「あんまりしゃべったことないし、よく知らない。」など、はじめは照れくささや戸惑いがありましたが、各自が苦労して書き上げ、交換し合いました。

用紙を渡されると不安と興味からじっと見入り、「うれしー」と思わず声に出す生徒や、仲の良いグループでは互いに見せあう姿も見られました。

続いてEQ（エモーショナル・クオシェント―情動指数）質問紙法（※）で客観的自己分析活動を行いました。

生徒の感想には、「相手のことを書くのは難しかった。」「友達から見た自分を知りたかったので本当にやってよかった。」「これからは、いろいろな人と話せたらいいと思った。」等とあり、自己理解を深め他者への関心も高まりつつあるようでした。

同じクラスで生活しながらも日頃あまり話していない仲間関係。しかし、無関心というのではなく、むしろかなり仲間を意識しており、どう思われているか不安も抱いています。そんなお互いの心の緊張を解きほぐして、ホームルームがホームとして機能していくにはどうしたらよいのか。このクラスの、仲間とかかわりながら、自己理解・他者理解を深めていく活動に学ぶ点が多いように思われました。

（※）さまざまな設問についてイエス・ノーで回答し、共感性、自己認知力、統制力、粘り強さ、柔軟性、楽観性の各項目についてダイヤグラムによるプロフィールを作成する方法。

「自己理解のために」ワークシート

To（　　）さん、
私について記入をお願いします。
From（　　）より

1　私と初めてあった時の第一印象を聞かせてください。（いつ頃、どう思ったか、その理由は、その印象はその後どう変化し現在に至っていますか。）
2　私の性格について自由に述べてください。
3　私の長所と、その理由、エピソードなどを聞かせてください。
4　以下の項目について、あなたの思うとおりに評価してください。（かなりある、ふつう、要努力の三段階での　チェック欄省略）
①私の行動力は　②忍耐力は　③自己主張能力は　④内省力（反省する力）は　⑤持続力は　⑥責任感は　⑦発想力は　⑧計画力は　⑨リーダーシップは　⑩プレッシャーに対する強さは
5　ズバリ一言でいうと私のアピールポイントは何ですか？
6　今の私をさらに大きな人間にするとしたら、どんなことが必要になるでしょうか？

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています